

学校だより



新潟市立葛塚小学校
令和3年7月6日(火)

ホームページ URL
<http://blog.citynii-gata.ed.jp/kuzusho/toyosaka/>



特色ある教育実践「優良賞」

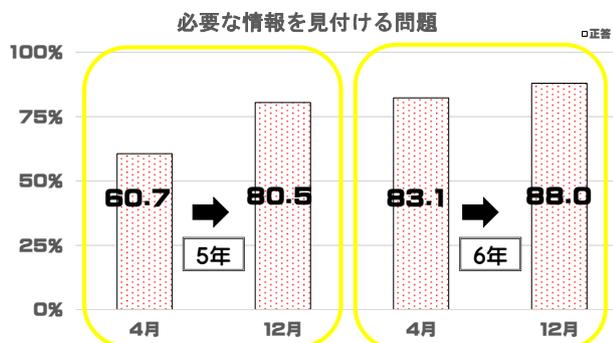
教頭 新田見 誠

葛塚小学校は、平成30年度・令和元年度の2年間、文部科学省（国立教育政策所）の研究指定校に選ばれ、「国語科」の研究に取り組みました。

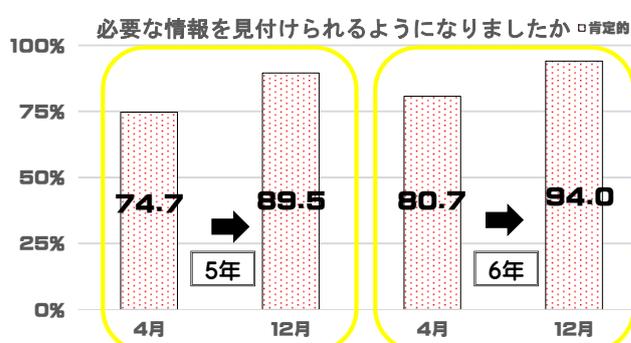
今年（令和3年1月30日）、この取組を改めて評価していただき、新潟日報と日本教育公務員弘済会 新潟支部が共催している事業において、葛塚小学校は「特色ある教育実践『優良賞』」を受賞しました。

この「優良賞」をいただくことができたのは、子どもたちの頑張りとお教職員の頑張りがあったからです。下記は、子どものアンケート調査です。資料1、資料2ともに、同じ年の4月と12月を比較して「問題の正答率」も「子どもの意識」も高くなったことがわかります。

【資料1 必要な情報を見付ける問題 正答率】



【資料2 子どもの意識】



全教職員が日々、「どうしたら楽しく分かりやすい国語の授業になるか」を考え、全教職員が時間をかけて何度も何度も話し合いました。

2年間の国語の研究は終わりましたが、今も学習の中で大切だと考えていることは、「環境づくり」です。例えば、本を読むことが嫌いな子どもがいます。けれども、担任の先生が、本を読む時間を毎朝15分ずつ1週間続けました。最初の数日は、本に興味を示さなかった子どもでしたが、みんなが静かに本を読んでいたりと、「この本おもしろいよ」と話しかけられたりすることで、本を読むようになりました。

この例のように、学習においても「環境づくり」によって、同じ時間を学習したとしても集中の仕方や学び方が大きくかわってきます。

今年度も、子どもたちの学力が向上するよう、楽しい授業が行えるよう、教職員がアイデアを出し合い、全校体制で取り組んでいきます。



〈学力向上部〉 「たかめあい」をめざします

算数 自分の考えをもち、伝え合う子どもの育成2

今年度は昨年度に続き、算数で「主体的、対話的で深い学び」についての研究を行います。昨年度は、子どもたちが意欲的に学習に取り組めるような課題の工夫と、課題解決につながる見通しのもとせ方について研究しました。その結果、学習に対して学習意欲が高まり、楽しみながら取り組める子が増えました。

今年度は、特に、対話を通して考えを広げたり深めたりするところに重点を置いて研究します。友達の考えを聞いて、自分とは違う考え方や理由を知って考えを広げたり、考え自体は変わらないけれど、考えの根拠が増えたり、公式のように考えが一般化されたりして、考えが深まったりする姿を期待しています。さらに、今年度はGIGAスクールがスタートし、1人1台タブレットを使った授業を行っています。特に、考えを共有させる場面でタブレットを使うことで、今までではできなかったような授業が行えたり、より効果的な授業が行えたりします。タブレットを取り入れることで、授業が変わり、子どもたちにさらなる力を付けることができると考えています。また、今年も新型コロナウイルスの感染を予防しながらも、しっかりと学力が付くような取組をしていきます。

今年度はタブレットを各家庭に持ち帰る予定です。家庭でタブレットが正しく、効果的に使われるためには保護者の皆様の協力が必要となります。ご理解とご協力をお願いいたします。

(学力向上部 主任 塚本 剛)

〈生活指導部〉 「ささえあい」をめざします

「規律」と「信頼関係」を重視した指導を全職員で行います

生活指導部の目標は、子どもたちが安心・安全な学級で過ごせるようにするために、「規律(Rule)」と「信頼関係(Relation)」の2つの“R”を重視した生徒指導を日常活動の中で担任および担任以外の全職員で行うことです。そのための手立てとして次の2点に取り組んでいきます。

◎ きまりやマナーを守ることに、自分や友達、学級のよさを振り返る場を設ける。

これまで行われていた学級力アンケートは今年度も継続します。学級力アンケートの項目に「学習のルールを守る」「生活のきまりを守る」を入れ、自分たちの学級はきまりやマナーを守っているかについて、学年の発達段階に応じて振り返らせていきます。そうすることで、きまりやマナーを守る規律のある学級や学校で過ごす安心感に気付かせていきたいと考えています。

◎ 成長を促す指導・いじめ等に対する予防的な指導を行う。

規律を守らせるときに、厳しく指導をすることはあります。しかし、教師との信頼関係を築く上では、社会に適応した正しい行動のコツを教え、児童を支えることが必要となるでしょう。そこで、社会に適応した正しい行動のコツを学級内で教える指導(SEL)を行います。例えばあいさつなどの基本的な生活習慣や、友達との関係づくりについて、問題が起こる前に予防的な指導として取り入れます。さらにこれまで行ってきたお互いのよさを認め合う「振り返りの場」の設定、帰りの会等での「キラリさん」や「ほめシャワー」などを行い、認め合う気持ちを育てていきたいと考えています。

(生活指導部 主任 松本 和大)

〈健康体力部〉「からだあい」をめざします

キーワードは、「運動量」「生活実態を踏まえる」

健康体力部の目標は、「体育的活動の充実」と「望ましい生活習慣の育成」の2点です。目標達成のための手立てとして、以下の2点を実施します。

◎ 全校統一カードの活用と職員向けの体育実技講習を実施して、運動量を確保した授業を目指す。

6年間を見通した全校統一の学習カードを用いることで、自分の目標を明確にさせやすくします。また、職員に向け体力テストの結果を踏まえた体育実技講習会を行い、職員に対して運動量を確保した体育授業についての共通理解を図ります。そうすることで、体育の授業で自分の目標達成に向かって、たくさん体を動かす姿を目指します。

◎ 生活チェック週間を通して、家庭と連携して生活習慣の定着を図る。

年3回の生活チェック週間（ばっちり・にっこり・すっきりカード）を通して、食事や生活習慣の大切さについて家庭と連携して指導していくことで、自分の課題を改善しようとする姿を目指します。昨年度に引き続き、生活実態を踏まえて目標となる就寝時刻を各家庭で設定する取組を行います。また、生活チェック週間前にメディアと睡眠の関わりや睡眠の大切さを子どもたちに呼び掛ける取組などを行います。ご家庭でも生活習慣の定着に向けての取組のご協力をよろしくお願いいたします。

（健康体力部 主任 浅見 真理奈）

〈特別支援教育部〉「たかめい」「ささえあい」をめざします

「葛小UDスタンダード10」に取り組みます

今年度も、教育におけるユニバーサルデザイン（UD）の視点を入れた取組を行います。

環境①	授業の始まりと終わりの時刻を守る。（ゴールの時刻を守る。）
②	教室前の掲示物は、教育目標、「聞くこと・話すこと」、「プレートのボード」（一日の流れ・1時間の流れ）の3枚とする。
③	学習用具やファイル類の置き場所を決め、片付け方を文字や写真で明示する。（ロッカー・ボックス）
④	提出物の置き場所を明示する。
⑤	休み時間や教室を空ける時、下校時は、椅子を入れさせる。
授業⑥	授業（単元）のゴールを示し、方向付ける。
⑦	発問や指示は、簡潔に言う。長く話さない。
⑧	視覚教材などを活用し、引きつける工夫をする。
⑨	課題が終わった後にやるべきことを用意し、空白の時間をつくらない。
⑩	教師に注目させてから話をする。 （体育は教師が手を挙げ、黙って手を挙げたら話をする。）

どの子も分かる授業と集中できる環境作りをするため、上記のような10個の項目（葛小UDスタンダード10）の取組を全校体制で行います。今年度の重点項目は、①の「授業の始まりと終わりの時刻を守る。」と⑥「授業（単元）のゴールを示し、方向付ける。」です。授業の時間を守ることで、子どもたちも授業と休み時間の区別がつかます。また、授業の始めに「どんなことをするのか、授業の終わりにはどんなことができるのか」と示すことで、授業のイメージが浮かびやすくなります。さらに、⑦の「発問や指示は簡潔に言う。長く話さない。」というのは、どの子にも話が伝わりやすくなります。葛小UDスタンダード10を有効に活用して、誰もが安心して学べる授業・環境作りを進めます。

（特別支援教育部 主任 布施 和法）

「かだらあい」をめざします

食を通じて豊かな心と健康な体作りを目指します

成長期にある子どもたちの心身の健全な発達のために、安全で栄養のバランスがとれた食事を提供するとともに、学校給食を身近な生きた教材として活用するなど、食育の取組をすすめていきます。今年度の取組は下記の内容となります。

◎給食・食育の指導を計画的に行います。

- ・年間指導計画に基づき、月ごとの目標に合った内容について、学級で指導を行います。
- ・学級担任と栄養教諭が連携し、栄養バランスがとれた食事への意識付けや、望ましい食事のあり方などについての指導を行います。

◎給食時間を活用して指導を行います。

給食委員会が当日の献立から料理や栄養・食品に関する内容の一口メモを放送します

◎リクエストメニューを実施します。

6年生の家庭科の授業で、栄養バランスがとれた献立を考えてもらい、給食で実施します。

◎食についての情報提供を行います。

食育だよりで食や健康についての情報を提供します。ご家庭でも、子どもたちの健康な体づくりのために、ご協力をお願いいたします。



(栄養教諭 五十嵐 恵)

「ちいきあい」をめざします

みんなのかけはし ～地域と学校パートナーシップ事業～

「地域と学校パートナーシップ事業」は、次の四つの柱に沿って活動が行われます。この四つの柱について、葛塚小学校の取組をご紹介します。

1 学校と社会教育施設、地域活動を結ぶネットワークづくり

地域教育コーディネーターが、地域コミュニティーの委員としてかわり、情報交換や地域活動をしています。

2 学校の教育活動・課外活動における地域人材の参画と協働

学校の授業や環境整備に、ボランティアとして保護者や地域の方々の協力をいただいています。1年生の下校指導に始まり、総合の授業の講師、朝学習時の読み聞かせ、畑やビオトープの整備、ザリガニつり補助、家庭科での手縫い指導補助などが行われました。

3 学校における地域の学びの拠点づくり

学校図書館で、読み聞かせボランティアグループ「おはなしたまてばこ」の有志の方々による「お話の勉強会」を行っています。

4 学校の教育活動の様子を地域に発信

活動の様子を載せた「ひしの実通信」を5月に発行しました。



(地域教育コーディネーター 金桶布志代)